

法吉小学校だより



法吉っ子

令和8年9月 文責 校長：伊藤英俊

法吉小のホームページも

どうぞご覧ください⇒



ほん気で考える子・つよい心をもった子・きょうも元気な子・このまちを大切にする子

◆2学期始業式

日中最高気温34度となる暑い日、2学期がスタートしました。久しぶりの学校で、登校時に熱中症になりはしないかと心配していましたが、元気な顔で登校してくる姿をみて安心しました。

始業式では、次のような話をしました。

2学期は、1年間の中で一番力が伸びる学期です。その応援をするために、お客さんが来てくれました。それは2匹のカエルさん、「ふりカエル」さんと「きりカエル」さんです。お話を聞いてみましょう。



1学期の終わりに、あいさつがよくなってきたことを話したよ。100人、200人、300人と自分からあいさつできるこどもが増えるといいね。でも、お客さんにはまだまだできていないんだ。お客さんに会っても気持ちの良いあいさつができるようになったら本物だね。



「切り替える」のお話もしたね。休憩時間がおわったら、急いで教室に戻って次の勉強の準備をする人がいたよ。「1学期に、切り替えを大事にして、やるべきことに一生懸命取り組みやり抜いたこどもたちは、力をととても伸ばした」と、担任の先生が言っていたね。

そうだねカエルさん、法吉のこどもたちは1学期にだいぶん力を伸ばしたんだよね。今日から2学期スタートなので、2学期も「ふりカエル」「きりカエル」を意識して、どんどん力を伸ばしてほしいね。きっとみんな頑張ると思うよ。

ほっきっこがカエルさんのように、ピヨーンと力を伸ばしていけるよう、支えていこうと思います。

◆歩んできた道の後ろには、歩んだ分だけ轍ができる

2年前、ドラマを見ていたら「オポチュニティの轍（わだち）」という回があり、私はとても見入っていました。それは火星探査機オポチュニティが自身の進んできた道をふり返って撮った写真で、荒れ果てて寂しい火星の大地に2本の轍がくっきりと写っているという場面でした。

運用想定約3カ月に対し、激しい砂嵐の中で14年半もの長きにわたり活動を続けたオポチュニティ。たった1台で困難に挑み、想定の50倍を超える期間探査を続けた姿には、機械を超えた生命力のような力強さを感じます。「どんな轍なのだろう」とネットで検索し、大地に見事に刻まれた2本の轍を目にした時、胸が熱くなり無性に勇気が湧いてきました。

歩んできた道の後ろには、歩んだ分だけ必ず轍ができる。そこには苦労や困難を乗り越え、一步一步ひたむきに前進してきた足跡が刻まれているのです。毎日毎日を前進していくことの意味をオポチュニティに教えられた思いでした。

本校が大切にしている「ふりカエル」もまったく同じです。自分の歩んできた道をじっくり振り返る（ふりカエル）ことは、自らの成長の証である轍を確認し、次の一步を踏み出す勇気を得るための大切な営みなのです。

こどもたちにも、毎日積み重ねてきた自分の足跡に誇りと自信を持ち、これから始まる新しい未来へ向かって、力強く歩み続けてほしいと切に願っています。



ほうきどり

校庭芝生管理、野菜づくり、図書ボランティア、ベルマーク集計、読み聞かせ、登下校の見守り、巡回見守り等、2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

電話:0852-21-4354 FAX:0852-21-4359 Mail:hokki-e@city.matsue.ed.jp